

原油市況

原油価格（WTI 期近・終値）は、7 月初めに 1 バレル = 145 ドル台と史上最高値を更新した。しかし、その後は世界的な景気悪化懸念の強まりなどから反落基調をたどり、10 月中旬には金融市場の混乱や先行きの需要の減少観測を受けて、07 年 8 月下旬以来の 70 ドル割れとなった。こうした状況から石油輸出国機構（OPEC）は次回 10 月 24 日の総会で減産に踏み切る見通し。

米国経済

米国では、住宅市場の調整が続くなか、生産や雇用、消費の悪化も進んでいる。サブプライム問題については、金融機関の不良資産の買取りや株式取得に対し、最大 7000 億ドル（約 75 兆円）の公的資金投入などを柱とする金融安定化法案が 10 月 3 日に成立。これを受けて、2500 億ドルの公的資金の注入が決定した。また、米連邦準備制度理事会（FRB）は 10 月 8 日に欧州中央銀行（ECB）等とともに政策金利を 0.5%pt 引下げ、1.5%とした。しかし依然、信用不安は払拭できていない状況にあり、実体経済に与える影響が警戒されている。金融市場では FRB が追加利下げに踏み切るとの見方が広がっている。

国内経済

わが国でも、エネルギー・原材料高や輸出の鈍化が見られ、景気後退懸念が強まっている。9 月の輸出額は前年比+1.5%と米国向けが減少していることから伸びが鈍化傾向にある。8 月の鉱工業生産指数（確報）は前月比 3.5%と大幅減となった。先行きの生産は、9 月に同+1.6%と上昇すると予想されるものの、10 月は同 0.1%と低迷する見通し。また、設備投資の先行指標となる機械受注（船舶・電力を除く民需）の 8 月分は前月比 14.5%と大きな減少となった。一方、賃金が伸び悩むなか、消費者マインドは悪化している。以上のように内需、外需ともに弱含んでおり、先行き一段と景気が悪化することが懸念されている。

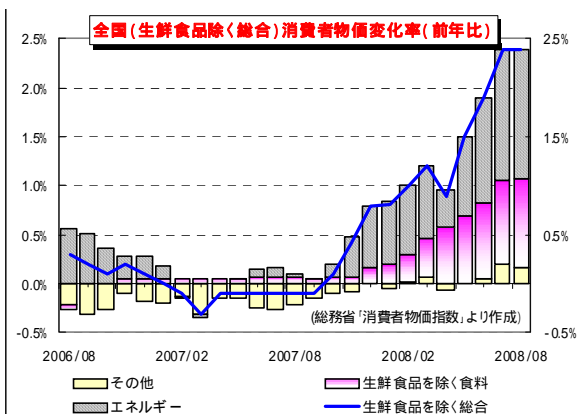
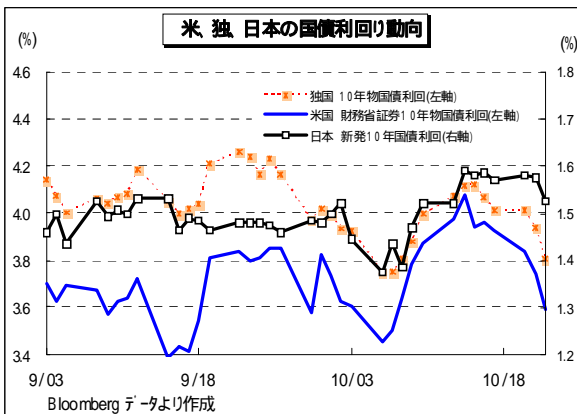
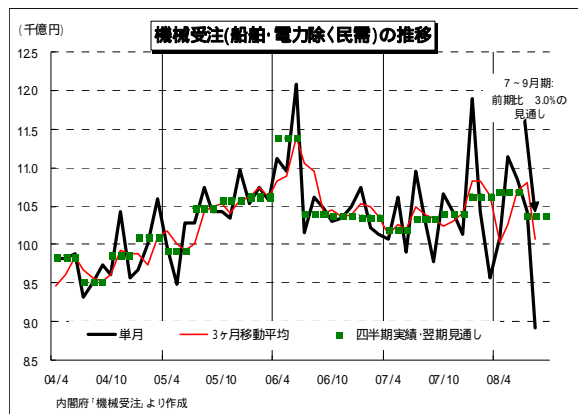
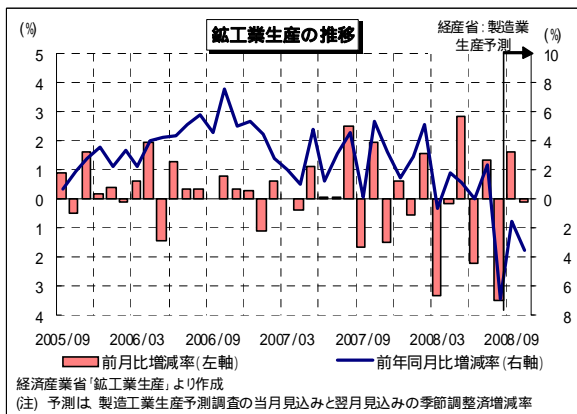
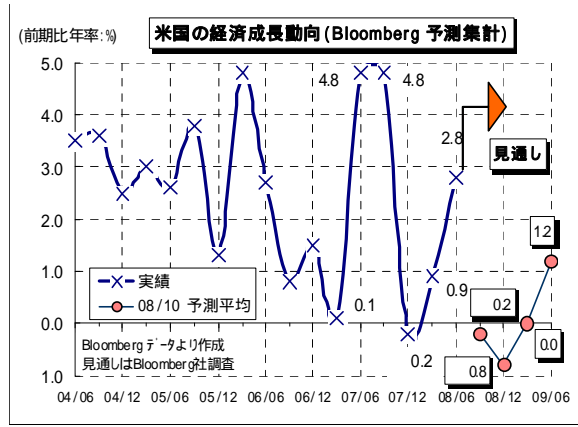
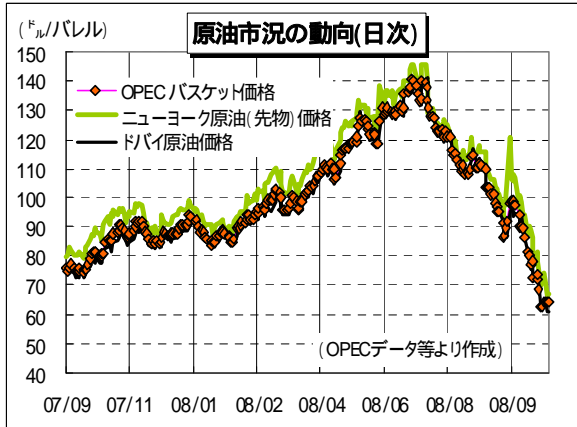
金利・株価・為替

外為市場では、円の独歩高となっている。ドル円相場は、米国での信用不安などから再び円高ドル安傾向となり、10 月下旬には追加利下げ観測などから一時 97 円台となった。また、ユーロ・ドル相場は、欧州金融機関の経営不安などから直近では一時 1 ユーロ = 1.27 ドル台までユーロ安・ドル高が進んだ。このため、ユーロ円も一時 1 ユーロ = 124 円台まで円が上昇した。日経平均株価は、業績悪化懸念や円高に加え、9 月中旬からの世界同時株安などから 10 月 23 日には約 5 年 5 ヶ月ぶりに一時 8,100 円を割り込み、年初来安値を更新した。日本の長期金利の目安である新発 10 年国債利回りは、「安全資産への逃避」の動きから 10 月上旬に一時 1.3%台後半まで低下した。しかしその後は、欧米中央銀行の協調利下げに日銀が不参加だったことによる利下げ観測後退や信用収縮に伴う投資家の換金売りなどから 1.5%台で推移している。

政府・日銀の景況判断

政府は 10 月の景気判断を「弱まっている」と 2 ヶ月ぶりに引き下げた。先行きも「当面、下向きの動きが続く」とし、「景気がさらに厳しいものとなるリスクが存在することに留意する必要がある」としている。一方、日銀は 10 月の景況判断を「停滞している」と、2 ヶ月連続で据え置いた。なお、総合経済対策を受けた補正予算（総額 1.8 兆円）が 10 月 16 日に成立したが、政府・与党は定額減税 2 兆円規模とする追加経済対策を取りまとめている。（08.10.23 現在）

内外の経済金融データ



(詳しくは、ホームページ-トピックス-[今月の経済・金融情勢] <http://www.nochuri.co.jp>へ)